

10月3、10日

県内小学生 14人が体験

日本財団が推進する海と日本プロジェクトの一環として「海の力で街おこし！～海なし県で海のチカラ発見隊」（海と日本プロジェクト in 栃木県実行委員会、とちぎテレビ主催）が10月3、10日の両日、県内で実施されました。

県内在住の小学5、6年生14人が、司会役の同テレビアナウンサーの藤田真奈さんと同テレビ情報番組「イブニング6」MCの永井壘さんと一緒に那須烏山市のジオパーク構想地体験や那珂川町の温泉トラフグなどを調査。海のない栃木の海とのつながりを発見しました。



ジオパーク構想地～温泉トラフグ

1日目の3日、最初の調査は那須烏山市のジオパーク構想地（南大和久地内）です。ジオガイドの中山雅彦さんの説明を聞きながら、地表の至る所に二枚貝が露出した海成層を見学しました。栃木県の一部はかつて「奥東京湾」で、オオガネクジラや貝の化石は栃木が海だった時代の証拠であることを実感。採取した二枚貝は、貴重な体験と共に思い出の品になりました。

その後、同市南那須公民館で市内の化石コレクターとして知られる吉澤時明さんが所有する



1



3



2

- ①ジオパーク構想地体験②化石見学③温泉トラフグ美食④県水産試験場⑤県なかがわ水遊園⑥馬頭高校水産課紹介⑦うみぼす

海を思い、世界を学び

2020

未来を見据えた

クジラやイルカ、サメの化石を見学。マッコウクジラの歯など貴重な化石に触れ、化石の見つけ方も教わりました。

次の調査は、海のない本県で養殖されている全国初の「温泉トラフグ」。温泉トラフグ発祥の



地、那珂川町に向かうバスの中で、海の生き物のトラフグを養殖できるのは、塩分濃度が0.9%の馬頭温泉郷の温泉水を使っていること、温泉水のため成長が早く、循環型なので環境を汚さないことなどを学びました。

そして、御前岩物産センターでお楽しみの実食（昼食）です。同店の塩澤孝子さんから温泉トラフグによる町おこしの話を聞き、温泉トラフグの天ぷらや手打ちそばを味わいました。

県水産試験場～なかがわ水遊園

2日目の10日は、日本でもトップクラスのDNA研究をしている大田原市の県水産試験場へ。尾田紀夫統括から、すぐそばを流れる那珂川のアユやサケ、ニジマスを品種改良したヤシオマス、病気にならない元気な魚を育てるための研究について話を聞き、研究棟で繁殖保存している希少種の「ミヤコタナゴ」に興味深く調査しました。

県内唯一の水族館として、全国でも珍しい淡水魚をメインに飼育する県なかがわ水遊園では、那珂川やアマゾン川の生き物を見学し、那珂川の源流から太平洋までのつながりを実感しました。さらに、馬頭高校水産科長の青木信太郎さんがチョウザメの養殖やキャビアの製造、海洋実習についてレクチャー。海で役立つ二重つなぎ（ダブルシートメント）などのロープワークに挑戦し、同科が製造したアユの魚醤（ぎょしょう）をお土産にいただきました。

調査のまとめは、海のポスター「うみぼす」の制作です。海洋連盟スタッフのアドバイスを受けながら、今回のプロジェクトでの学びや体験を振り返り、思い思いにメッセージとアイデアを膨らませた作品が完成しま



4



5



6



7

した。プロジェクトを通して「海のチカラ」を活用した、全国に誇る街おこしや養殖・研究について学び、海とつながるふるさとへの思いも深めました。

人見 柊介くん
宇都宮市 豊郷南小5年生
化石を見学して、今ここにこうしていただけるのがすごい。もともとは深海で、海がなくなったから見られるということに感動した。イルカの脳函鑄型がすごかった。

白戸 蒼空さん
宇都宮市 西原小6年生
ジオパークの調査では、いろいろな化石を見ることができて面白かった。昔の生き物がこんなにもいたんだと驚いた。

白戸 咲依さん
宇都宮市 西原小5年生
ジオパークの地層にある貝の跡を見て、縦線と横線が混ざった線の模様がきれいだった。

榮谷 真優さん
下野市 古山小5年生
温泉トラフグは初めて食べるので、どんな味がするのかなと思ったけど、とてもおいしかったです。

前田 晴さん
宇都宮市 横川東小6年生
栃木県に少ししかない魚を研究したり、保全したり、すごいなと思った。私も将来こうした仕事に関わりたいです。

沼尾 奏汰くん
宇都宮市 瑞穂台小6年生
「うみぼす」の制作では、サケががんばって海から川へ泳いできたことに感動した思いをきれいな海に表現した。